

# 瀬戸内トラストニュース

第37号 2006年10月

環瀬戸内海会議事務局 700-0973 岡山市下中野 318-114 松本方 Tel&fax 086-243-2927

## 環瀬戸第17回総会、八幡浜市で開催



第17回総会が7月15～16日、八幡浜市で盛会のうちに開催され、皆様のご協力  
で無事終了した。総会に参加された皆様には、お疲れ様でした。台風の影響、梅雨前線の  
動きなど、天候が心配されたが、幸い、八幡浜市でも、そして視察や海岸調査を実施した  
佐田岬半島でも、天候に恵まれ、全日程をほぼ順調に進めることができた。

海砂採取は今年3月末愛媛県を最後に、瀬戸内海では全面禁止となった。しかし、瀬戸  
内海の環境保全・再生は道けわし。山口県上関町の原発計画による自然・生態系破壊、小  
豆島・内海ダム計画や、大分県佐伯市大入島の廃棄物埋立て護岸計画を巡る住民運動を引  
き続き支援するとともに、愛媛県今治市吉海町のように鉄鋼スラグなど新たな問題が出て  
きており、取り組んでいくことを誓った。また、私たち環瀬戸の最重要課題としてきた瀬  
戸内法改正へむけて、瀬戸内沿岸選出の国会議員へのロビー活動を進めていくことを決め  
た。(2～3頁に詳細を報告)

### 目次

第17回総会報告	環瀬戸内海会議事務局	2～3
第17回総会に参加して～参加者からの寄稿		3～4
2005年度会計報告並びに2006年度予算	環瀬戸内海会議事務局	5
討論を拒み続ける香川県 内海ダムの虚構を巡って	石井 亨	6
愛媛県今治市吉海町鉄鋼スラグ「一時保管場」現状報告	池田幸子	7
今治市桜井・沖浦海岸から硫化水素検出	阿部悦子	8
最後の砦～生き物たちの楽園～ハチの干潟	ハチの干潟調査隊	9
今なら まだ間に合う! 上関原発詳細調査のストップを!!	高島美登里	10～11
各地からのイベントのお知らせ	環瀬戸事務局	12

# 環瀬戸内海会議第 17 回総会報告

環瀬戸内海会議事務局長 松本宣崇

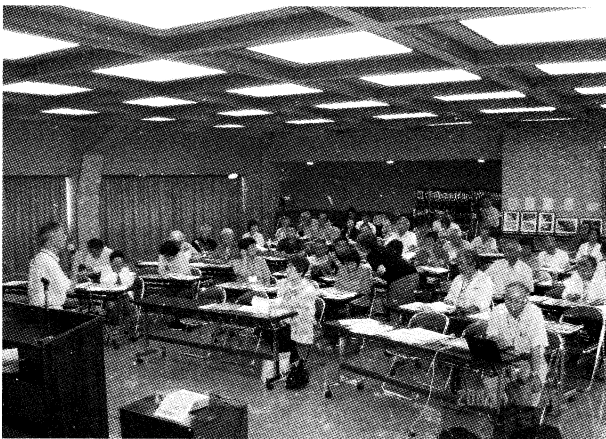
総会では、以下を確認しました。

- 1) 瀬戸内法の国会提出、議員へのロビー活動を進める。

10 万筆を早急に達成し出来るだけ早い機会に国会提出。現在集まっている署名は9万筆余り。個々の周りの方で署名への漏れがないか、署名をもらえる可能性のある団体はないか、もう一度、お確かめ下さい。

- 2) 小豆島・大入島・上関への支援の継続
- 3) 満 10 周年を迎える豊島・未来の森、次の 10 年への取り組み
- 4) 今治の二つの処分場問題や、竹原「ハチの干潟」藻場造成問題、塩田跡地の産廃処分場問題が、新たに浮上しており、監視していくとともに、支援していく。
- 5) 海岸生物一切調査の継続的实施

総会直前に全労災「環境活動助成金」授与が決まり、今年度の調査費用が確保できた。



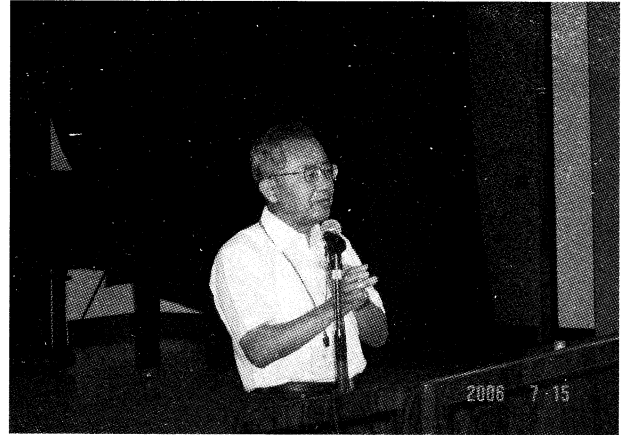
第17回総会

講演では、小林圭二さんが、プルサーマルの問題点を指摘、安全余裕が削られ危険性が増加することを詳細に解説。

高島美登里さんは、完成したばかりのビデオ「瀬戸内の原風景～長島の自然」を上映、豊かな自然の残る長島への上関原発を阻止しようと訴えた。

水本孝志さんの話は、佐田岬半島が北から南から渡っていく「国際的な渡り鳥の回廊」になっていること、渡り鳥にとって送電線が大きな障害物になっていること、佐田岬半島には今年中に風力発電が 60 基近くなるという。

無論、景観を損なっている。また、工事のために新たな道路が尾根筋に延長され、照葉樹林が無残に伐採され、南北に分断されてしまったと。



記念講演して頂いた小林圭二さん

## 16 日、半島の南北で海岸生物調査

海は非常に透明で、どちらもきれいだ。しかし、北側＝伊予灘側の夢永(むえ)海岸の岩礁帯には、貝類も海藻も少ない。緑色や紫色の薄くはがれる性質の水成岩？たくさんの石英が混ざっている。波に洗われて表面がつるつるで、藻も貝も定着しにくい場所なのかも。

南側の加周海岸、岩礁は良く似ているが、白い石英は少ない。表面もややでこぼこしている。貝の種類は多い。潮はあまりよくないが、それでも7～8種類の貝が簡単に確認された。

## 原発と風力発電視察

そして、伊方原発。山の上から全容を見下ろす。温排水の排出口は、全く確認できない。見ている今も温排水の放出で放射能が瀬戸の海に垂れ流され続けているのか……風力発電が半島の尾根伝いに点々と見える。「せと風の丘」なところに登ると、10 基の風力発電、巨大な風車。羽一枚の長さが何と 30 メートル。塔の高さは 50 メートル。でかい！

風力エネルギーを利用することは大いに賛成だ。しかし、1基数億円、電力供給を必要とする都市部から遠く離れ、供給するための送電線をつくらねばならない。しかもそのために尾根伝いを道路建設で分断する。1基造ろうとすれば、さらに道路を延長。本当に社会的コストに見合った発電方式なのか？原発よりは

安全だから「よしまし」な発電方式だという議論もあると聞くと、立地や送電線により失われるものは何か、もっと深い議論のすりあわせが必要なのではなからうか。

17日、佐田岬半島オプショナルツアー

12人が参加。晴天。四国の最西端・佐田岬半島の灯台まで、水本孝志さんの説明を受けながら、1.8キロの山道を動植物を観察しながら

歩いた。戦前から佐田岬が軍事的要衝とされ、軍港呉・広島を防衛線であったことを初めて知った。今は何の説明もないが、弾薬庫・トーチカ(砲台)の跡は、水本さんの解説・案内で岬の先端の各所に見ることが出来た。軍事要塞と化していた故か、一帯は本当に手付かずか、あるいは「里山」だったのか、植生豊かな半島であった。

### 2006～07年度役員名簿

改選期となった役員には、事前の役員会での議論をもとに下記の名簿を提案し、了承された。

代表：阿部悦子

副代表：青木敬介・石井亨・工藤政幸・倉橋澄子・実原進・高島美登里 以上留任  
吉田徳成(新任)

幹事：上元勝太郎・河野康臣・佐藤捷憲・角田学・服部豊・前田俊英・三木雅博・  
山本安民 以上留任 原戸祥次郎(新任)

監査：小西良平・坂永年弘 以上留任

顧問：佐々木克之・藤岡義隆・湯浅一郎・山田國廣 以上留任

事務局長：松本宣崇 留任

\* 顧問の林勤・古沢昭・依田彦三郎の三氏が今総会の終了を持って退任となりました。

## 第17回総会に参加して～参加者からの寄稿

### 環瀬戸第17回総会に参加して

東本高志@大分

私は昨年、環瀬戸に入会したばかりで、総会にもはじめて参加しました。とても充実した総会で、楽しくもありました。代表の阿部さん、事務局長の松本さんをはじめ総会準備にお骨を折られた役員の方々には心から感謝申し上げます。

会場の八幡浜市までは私の在所の大分市からは国道197号線で一直線です(途中、国道九四フェリーに乗り込みますが、名前のとおり国道の一部です)。フェリーの乗車時間を含めて正味2時間もあれば、八幡浜市に着くという近距離にあります。そういうことも総会に参加した理由のひとつです。

もう20年以上も前のことになりますが、八幡浜市を訪ねたとき、同市のフェリー乗り場に行く道筋には屋台のたぐいが立ち並び、その風景は私の生まれ育った石炭の町、若松市(現北九州市若松区)の港界隈にそっくりでした。私の父祖は四国の人で、この八幡浜の地を通過して若松の港にやってきたようです。20年前、八幡浜の港が若松港にそっくりだったのは私にとって発見でした。総会に参加したのはそうい

うこともありました。

閑話休題。ひとつだけ残念に思ったことがあります。総会出席者のお名前がわからないまま別れてしまったことです。参加者各位はそれぞれに立派なご活動をされておられる方々だと思うのですが、そういう方々と幾重にもタテヨコの関係を構築するのは、とかく「タコ壺」型の運動と揶揄される市民運動にとってとても大切なことのように思います。「参加者名簿」のようなものがあつたらな、というのが、私の感想でした。

もし、「個人情報保護」の観点から名簿を作らないのだとすれば、それはとてもナンセンスなことだと思います。個人、あるいは市民グループが情報を共有したり、連絡をとりあったりするための「個人情報」は、各自が主体的に自分の「情報」を提供している限り、有用、というよりも、必要不可欠の性質を持つものであろうと私は思います(もちろん、諸々注意すべき点はあるのですが)

## 環瀬戸内海会議第17回総会に参加して

神戸空港の中止を求める市民の会・松原康彦

中国電力による山口県上関町長島への原発建設は、調査ボーリングの段階で、すでに自然の宝庫である長島の海を、自然を、驚くほど豊富な貝や海草、魚、鳥、スナメリなどの生き物を、そして祝島のこの自然を守り共生して来た漁業を破壊し始めている。(DVD「瀬戸内の原風景・長島の自然」を是非見てください)

イラストレーターの仕事の断念し、「佐田岬半島生物研究舎」の活動をたちあげ、子どもたちとともに佐田岬を守ろうと活動されている若い水本孝志さんの、「国際的な渡り鳥の回廊-佐田岬半島は今」の報告と、翌日の直接の案内には、本当に人間の生き方の問題も含め、大いに考える機会となりました。(幸い水

本さんの車に乗ることが出来、本当によかったです)泊まった出石寺は、有数の銅山だった山の歴史と、寺を守り、瀬戸内海国立公園にしていた闘いの歴史をもつ。水本さんが子どもの頃育った遊び場で、そのお話と、戦後1951年ごろの再興、またその周辺の自然の変遷の話に、考えさせられました。

伊方原発はもちろんですが、「エコ開発」の名のもとに進められる風力発電によって、渡り鳥をはじめ多くの生き物たちのくらしが封じられ、殺され続けている現実を見ました。

小豆島の寒霞渓、大分の大入島など、国家権力・行政・大企業の横暴に改めて怒りを覚えました。

(06.7.17 記)

## 我ら、佐田岬を踏破せり

総会には1~2回しか参加したことがないのに、今回夫婦で参加、その心は…オプションツアー！先に言うておきます「こんな楽しいオプション付総会、毎月お願い！」更に言うておきます。「代表自らあんなに世話を焼き回らねばならぬなら、お願いするのは心苦しいが…やっぱりお願い！」

川ではないが濁らない方が綺麗とて、「さた岬」と発音すると、九州本土最南端=佐多岬@鹿児島県大隈半島になる。ここは正しく「さだ岬」といきたい。

半島全体が「佐田岬半島」。突端の岬の名前が「岬」付きのまま半島名になっている例は、浅学菲才の身には不知。希少さはそれだけでなく、日本最長半島(55.5km)、幅の狭さゆえの独特の自然、SFの武器になりそうなギザギザ⇒「リアスサーベル」と呼びたい。



岬突端近くに飲料自販機ありけり(麦酒無し!)、自販機そのものは待機電力のこともあり、エネルギーの無駄でしかないが、歩くしかないコースでは熱中症予防と称して思わず買ってしまい、某電力に貢献して反省。電線は元々灯台まで伸びており、自販機のために伸ばしたのではないが、多過ぎるくらい設置されているゴミ箱がPET等で満杯の上、他所にも

すま・はまの会世話人 高田 秀峰@神戸

ゴミが捨てられているのは悲しい。岬先端に弾薬庫跡と、テトラポッドと、コンクリの生け簀と、キャンプ村があるのはもっと悲しいか？

地元正野小学校の生徒さんたち作成の自然保護案内プレートが随所にあるのは嬉しい。方言で書かれているのもあり微笑ましい。

さて、ここでは総会・記念講演・ツアーで耳にした強印象文言を無断転記。但し、記憶定かでなく、錯誤あるかも知れぬゆえ、発言・筆者名は伏す。

○総会・講演で○

☆送電線のない社会を！発電所は都会に造ろう！

☆自然の中で遊ぶ子どもこそ絶滅危惧種

☆自然に優しい人工物など無い

☆自然を愛する人間から、自然に愛される人間に

☆ダーウィンには悪いが、猿が「退化」して人類にな

ったとしか思えぬ⇒進化も退化もない、変化のみ

○ツアーで○

☆バンダーにこそバンディングを！(バンダー=野鳥を捕獲し、目印のバンド等を付けて放鳥、渡りの研究等に協力する人。野鳥には危険物)

☆この半島は、自然・人生とも半分九州(大分)圏、鳥・蝶・蝉・蜻蛉・嫁が往来する(最近は婿も?)

ツアーが八幡浜駅で終了した時から降出した週間予報外しの雨が、そのまま大きな被害を呼び、驚くべき博識で絶妙のガイドをこなした地元の「寝耳に水」本孝志氏@団塊ドマナカの近所の小屋の根元を抉ったこと、新聞・TV報道のとおり。総会タイミングはギリギリセーフ！

最後に、半島の大自然(特に我々に寄って離れなかった加周海岸の紋黄揚羽&一生分以上脅かされただろろうシーボルト蚯蚓)に、有難う&御免！[駄文欠礼]

**環瀬戸内海会議・第16期(2005.4.1～2006.3.31)予算・決算  
並びに、次期第17期(2006.4.1～2007.3.31)予算案**


勘定科目	2005年度(2005.4.1～2006.3.31)				2006年度
	予 算	決 算	今期収入	増 減	予 算
<b>[ 収 入 ]</b>					
前期繰越	1,618,996	1,618,996		0	814,333
年会費	800,000	641,000		-159,000	750,000
事業収入	850,000	437,500		-412,500	400,000
寄付・カンパ	500,000	486,233		-13,767	500,000
雑収入	0	11,280		11,280	0
受取利息	10	27		17	10
トラスト繰入益	100,000	0		-100,000	0
助成金・みどり		820,000	2,396,040		0
収入合計	3,869,006	4,015,036		146,030	2,464,343
<b>[ 支 出 ]</b>					
会議費	20,000	12,150		-7,850	20,000
旅費交通費	300,000	525,313		225,313	350,000
通信費	200,000	230,662		30,662	240,000
事務用消耗品費	80,000	33,994		-46,006	35,000
新聞図書費	0	93,710		93,710	20,000
諸会費	20,000	25,000		5,000	20,000
支払手数料	7,000	5,250		-1,750	5,000
プロジェクト費	0	0		0	0
寄付金	20,000	10,000		-10,000	10,000
雑費	50,000	15,605		-34,395	20,000
トラストニュース	700,000	144,440		-555,560	400,000
支払利息等	0	0		0	0
総会費	150,000	278,868		128,868	200,000
事務所費	840,000	840,000		0	840,000
複写費	120,000	168,430		48,430	150,000
機材購入費	0	1,431		1,431	0
助成金支出	0	815,850		815,850	0
支出合計	2,507,000	3,200,703		693,703	2,310,000
<b>[ 残 金 ]</b>					
	1,362,006	814,333		-547,673	154,343
次期繰越	1,362,006	814,333		-547,673	154,343

**監 査 報 告**


環瀬戸内海会議第16期(2005年度)会計を厳正に監査したところ、  
帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

2006年7月

監 査

小西良平 

監 査

坂永年弘 

## 討論を拒み続ける香川県

内海ダム再開発問題では、寒霞溪の自然を守る連合会が毎月第1月曜日に県庁前で街頭活動を続けています。



香川県は、一昨年来繰り返し申し入れてきた「公開の場での討論」を頑なに拒否し続け、今以て受け入れません。基本高水（降雨時に川に流れ込む水の流入量）や河川の流下能力を住民側でも詳細に計算し直しました。その結果、明らかに過大に計算された流入量や、潮位が上昇した場合の下流域での氾濫には効果がないなどの事実が明らかになったのです。こうした事実について討論を求めているわけです。ところが、インターネットでこちらの計算書を公開し、都合のよい説明を一方向的に発信しておきながら、向き合っただけの話し合いを拒否したままです。

香川県と住民側の計算で最も異なるところは、流入量です。内海ダムでは1時間に85ミリの雨を想定して流入量を計算していますが、流入する面積は4.8平方kmですから毎秒113立米/秒の水がダム地点に集まることとなります。

これは、一滴残らず集まった場合です。実際には地面に浸み込みあるいは植物の肌を這い斜面を流れ落ちる抵抗（等価粗度係数）により、相当急峻なところでも0.75~0.85倍程度になるので多くても97立米/秒くらいの値になるはずで、実際の流入記録と照合してもほぼ同じ数字になっています。この水の量ならダム

## 内海ダムの虚構を巡って

環瀬戸副代表 石井 亨

による洪水調整を行わなくても現在の別当川で流せるのでダムは要らないことになります。

ところが、香川県はここで、降雨からダム地点に流れ込むまでの流入時間が33分しかかからず、一時間内の雨の降り方は均一ではないので強い時には117ミリの雨が降る可能性（降雨強度）があるとして最大130立米/秒の水が流入してくるというのです。

香川県が33分としているのは、河川砂防基準の「2平方kmからの集水時間」を30分とみるという全国一律の目安を根拠としています。

しかし、実際には昭和51年の記録的集中豪雨の水文資料から小豆島固有の等価粗度係数を香川大学が明らかにしており、これによると流入時間は少なくとも1時間はかかるとされ、流入量は最大でも97立米程度でダムは必要ないという答えが出るのです。



香川県の計算はダムを作るための計算であって、決して治水のための計算ではないとの誇りは免れないでしょう。

水源連によって近くこの問題についての国土交通省交渉を行います。香川県に事実を認めさせるには多くの皆様の支援が必要です。

また、香川県は住民の訴えを無視しながら用地買収を強硬に進めています。地主による入会地所有権を巡る訴訟も検討しています。引き続きのご支援をお願いします。

# 今治市吉海町鉄鋼スラグ「一時保管場」現状報告

津倉環境を守る会 池田幸子

前号（第36号）で、吉海町の鉄鋼スラグ埋立による自然環境への悪影響、住民の健康被害の実態を取上げ、松本事務局長により鉄鋼スラグの問題点を掲載して頂きました。

環瀬戸の阿部代表はじめ、会員の皆様のご協力とご指導を得て4月25日には愛媛県に嘆願書を提出しました。5月1日には県の現地調査があり、浸出水の採取が行われ、同じものを住民側も独自の調査をと、中地先生（環境監視研究所）に依頼しました。5月4日津田先生（岡山大学教授・疫学）の現地調査による健康調査のご指導を受け、聞き取り調査を実施しました。

5月17日県による住民説明会が行われました。業者はスラグ撤去の意思がなく法的規制も及ばない、住民と業者が話し合っ環境保全を図る他ない、スラグ撤去の要求を取り下げない限り、県としては協力の余地はないとの、県の説明でした。浸出水の調査結果も出揃っておらず、この時点での県の説明は業者側の意向をそのまま住民に伝える不可解なものでした。

6月3日、関口先生（長野大学教員）の現地調査で、このスラグは産廃に他ならず、「闘うべし」と助言を得ました。津田先生よりスラグと住民の健康被害の因果関係は証明されるとの調査結果も頂きました。県と業者による説明会の前日（6月13日）、中地先生から調査結果が届き、重金属の検出を記者会見で発表、マスコミが大きく報道しました。

6月14日、住民説明会では、県による浸出水からの基準値を越す重金属の検出と、業者による事業白紙撤回の発表がありました。理由は

土地選定と施工方法の調査検討の不備という。阿部代表がすかさず両者に早期撤去、原状回復、検討委員会の設置を約束させました。



06年9月 吉海町鉄鋼スラグ「一時保管場所」中央部の「池」に強アルカリ化した雨水がたまっている

6月27日に県・住民・業者による検討委員会が開かれ、業者より撤去工事の計画書が提出されました。ところが、二次被害も起こしかねない不完全な計画であったため、7月19日県に申し入れ書を提出し、完全なスラグ撤去に県が責任を持つことを要望しました。

撤去には専門的な知識が要求され、業者との交渉は住民だけでは難しく、8月11日梶山弁護士に現地視察のうえ、ご指導を依頼しました。公害防止協定締結のため、業者との交渉に当たって頂いています。

スラグ埋立地は、高アルカリ水と化した雨水がいくつもの池となって、炎天下の日には異臭を放っていましたが、8月下旬より、撤去前段工事として、タンクローリーでの浸出水の運び出しが続けられています。雨水処理後の本工事が最大のヤマ場であり、住民の結束と阿部代表はじめ諸先生方のお力添えが一段と切望されます。今後ともよろしく願いいたします。

## 06年度会費納入のお願い

年会費 個人一口 2,000円 団体一口 5,000円

既に納入頂いた方にも振込用紙を同封しております。環瀬戸の活動はもっぱら年会費とカンパでまかなわれています。また、環瀬戸では上関はじめ各地の運動支援や瀬戸内法改正のための支援カンパをお願いしています。余裕のあるときに少しでもカンパを頂けたら幸いです。

# 愛媛県今治市桜井・沖浦海岸から硫化水素検出

愛媛県は安全宣言

環瀬戸内海会議代表 阿部悦子

今治市の桜井、沖浦海岸は今治市管理の一般廃棄物処分場の100mほど下流にあり、市の調査で総水銀が環境基準の5400倍も検出されている場所である。さらにその海岸の一部から8月30日に硫化水素が9ppm、翌31日には90ppm検出された。これは、長野大学の関口鉄夫氏がこの海岸を訪れて消防署に通報し検知されたものである。

環瀬戸内海会議と地元団体は、すぐに県の調査と対応を求めたが、県は9月15日、「硫化水素の原因は隣接する産廃業者からの排水口と考えられるが、原因は雨水と家庭排水であり、業者に違法は認められなかった。また、環境省の調査では燧灘にはもっと硫化水素物濃度の高い海域もあり、この海岸の濃度は高めとはいえ特段の問題ではない。」とする「安全宣言」ともとれる「調査結果」を、マスコミを通じて発表した。

これに対し、関口氏からは、「硫化水素は有機物が多量に存在し、嫌気性に維持された時に生成される」とし、「まずは産廃業者の敷地内の管理型および安定型処分場を疑うべきであり、なぜ申し入れたボーリング調査などを行わないのか」との意見書が提出された。

また環瀬戸生物調査班の小西さんは、沖浦海岸周辺の海の生物の状態は健全性を失っており、種も極端に少ないことなどを指摘する地図と写真付きの報告書を提出して下さった。

さらに、湯浅一郎さんは、論文「瀬戸内海の貧酸素水塊」で発表したご自身の研究から、硫化水素物濃度の高い燧灘の息吹島周辺の高い濃度は製紙産業が盛んな愛媛県伊予三島と化学工場のある新居浜市沖との関連があると考えられ、そのこと事態が問題であるにも関わらず、その海域の20~30m海底の濃度と、海水浴場の砂の濃度を比較すること事態が無意味であるとの「意見書」を提出して下さった。

これに対し、県は「15日発表分は報告書ではなく、ただのメモである」と答えたのである。私はこの問題について9月27日、県議会の一般質問で質したが県は今までどおりの見解を繰り返すのみで、その無能ぶりを示した。行政が市民を守ることは、地方自治法による責務であるにも関わらずである。私たちはさらなる追及をしていかなければならないと思う。

2006.9.1 取材  
今治・桜井  
砂浜から硫化水素ガス  
付近で悪臭排水原因か

三十一日午前八時四十分ごろ、今治市桜井の桜井海岸ふれあい広場近くの海岸で「悪臭がする」と同市消防本部に連絡があった。同本部職員が砂浜から、悪臭防止法の大气濃度規制値(0.0210ppm)を超えている9.0ppmの硫化水素ガスを検出。県と市は現場付近を立ち入り禁止にし原因を調べている。

同日午前、県今治地方局と市役所を訪れ、原因特定を求め、要望書を提出した。同グループによると、二十六日午後、市民環境団体が現場で悪臭がしているのを確認、長野大の関口鉄夫講師(環境科学)らが三十日から調査していた。関口講師は「黒い土は、廃棄物などに起因する硫化物の可能性がある」と指摘している。

市民らのグループ七人が



海岸の硫化水素濃度を計測する消防職員(31日午前9時半ごろ、今治市桜井)

県によると、硫化水素は自然界では温泉地などで発生し、悪臭防止法の濃度、200~300ppm。労働安全衛生法では10ppmが許容限界、約一時間いると、急性中毒になるといふ。



# 最後の砦 ～ 生き物たちの楽園 ハチの干潟 ～

広島県竹原市から

広島県中部海域で3番目に大きな干潟。面積は約20ha。干潟としては小さな方ですが、賀茂川から流れ出る砂が、堆積してできた河口干潟です。全国的にも少なくなっている自然海岸も1.8km存在します。ハチの干潟では、今でも穴ダコを掘ったり、ゴカイを掘ったりと、地元民の大切な場所にもなっています。また、子どもたちの環境学習などに幅広く利用され、鳥類も様々な種類が集まり、バードウォッチングにも適しています。浅い砂地には、コアママが生え、沖に向かうとアマモ、そして岩礁にはホンダワラなどのガラモ場が広がっています。また、賀茂川の東側では、砂地・砂泥地・岩礁・礫が、西側では泥地になります。この多様な環境によって生態系も豊かなのです。ハチの干潟は、両側を山と海とに囲まれ、これまで人の手が加えられることを拒んできました。ハチの干潟は、昔の瀬戸内海の姿を今も残している自然の砦です。

## ハチの干潟行われようとしていること

ハチの干潟には「藻場造成」の計画がされています。推進派は藻場をより大きくし、漁場を造りたいとしています。私たちは、ハチの干潟での調査を続けて行くなか、もともと広大な藻場があること、希少な生物が多数生息していることを確認しました。ハチの干潟に本当に「藻場造成」は必要なのでしょうか？



「藻場造成」計画地～ハチの干潟にはこんなすばらしい藻場がある！

### 争点1 もともと広大な藻場がある

まず、私たちが問題にしていることは、ハチの干潟にはアマモをはじめ、ガラモやコアママなどの広大な藻場がもともとあるということです。環境省の調査では、干潟面積の倍の35haもの藻場があると報告しています(04年)。竹原市沿岸では最大級の藻場です。こんな場所に藻場を造る必要はあるのでしょうか。

### 争点2 浚渫土(ヘドロ)を投棄する計画

港湾工事や埋め立ての基礎工事のときに、地盤確保のため海底にたまった、柔弱なヘドロを取り除く作業をします。その時に出たヘドロなどの泥が浚渫土です。浚渫土には広湾や松永湾などのように工業排水や家庭排水が流れ込んだものもあります。また微粒子のため、投棄すると海水が濁り、泥が海藻に付着し光合成ができなくなった海藻を死滅させます。泥による底質の変化で生き物たちへの大きな影響も心配されます。

この「藻場造成」計画は、産業廃棄物を請け負う海洋土木会社が主体です。要は浚渫土を低コストで処分し、なおかつ埋立法や海に関する条例に規制されない。それが「藻場造成」なのです。海面下での埋め立てのため人目につきません。「藻場を造る」はずなのに、なぜヘドロを投棄しなくてはならないのでしょうか？

### 争点3 漁師さんたちの後継者不足

計画は漁業者からの委託という形で進められています。漁師さんの高齢化と後継者不足と、漁獲高が減っている今、「藻場造成」という名目で浚渫土の処分が得た処理費を、海洋土木会社から補償金として受けとるといいます。

しかし、平成元年の竹原市忠海町長浜の沖での「藻場造成」では、浚渫土を入れたとき悪臭が立ちこめ、海岸が黒くなったといわれています。実は、この藻場造成もハチの干潟と同じ会社が同じやり方で進めました。推進派は、漁獲高は増えたとしています。「藻場造成」、実は名目で覆われた産業廃棄物投棄なのです。

ハチの干潟にはいかなる藻場造成も必要なく、次世代にハチの干潟を手付かずのまま残していけたらと思います。ハチの干潟調査隊では、今後も観察会や写真展を開き、ハチの干潟のすばらしさを知ってもらう活動を続けていきます。今後もよろしくお願ひします。

(ハチの干潟調査隊ニュースNO.4号、5号、ホームページより編集・転載 環瀬戸内海会議事務局)

ハチの干潟調査隊 <http://geocites.jp/pipopo227/hati2/top/top.html>

今なら まだ間に合う！ 上関原発詳細調査のストップを！！

～ 「詳細調査」作業規模の拡大を阻止するために ～

ビデオ「瀬戸内の原風景 長島の自然」完成記念  
シンポジウム & パネル写真展

長島の自然を守る会・代表 高島美登里

★ 詳細調査の遅れを取り戻すため作業規模拡大

昨年4月より強行された原子炉設置許可のための詳細調査は、現地祝島を中心とする実力阻止行動や私たちのボーリング濁水垂れ流し告発等で、予定より大幅に遅れていました。中国電力は、何としても06年度中に調査を終了させようと、4月25日早朝から、既設置のものより約4倍も大きな海上ボーリング台船を設置する作業を行おうとしました。折しも3月23日に、山口地裁岩国支部が「祝島漁協の組合員らには漁業補償契約の効力が及ばないので、原発の建設や運転により生じる迷惑に対する受忍義務や、操業をしないという受忍義務を負わない」と祝島の個人操業権を認め、「工事が、祝島の許可・自由漁業を妨げてはならない」という判決を出した矢先のことです。

★ 祝島の1ヶ月半にわたる実力阻止行動

この動きを察知した「祝島島民の会」の漁船団が現場に駆けつけ、抗議・監視行動を開始しました。5月7日の晩からは田ノ浦の海岸に泊まり込み 24 時間阻止態勢を確立、18 日間の阻止行動により、連休前までに仮栈橋と大型ボーリング台船の設置作業を完了させたいとしていた中電の目論みを阻止しました。また、第2波の6月4日以降は連日、田ノ浦の浜で夜を徹しての座り込みなど、実質的に一ヶ月半、抗議活動を続けました。

★ 祝島島民の会山戸代表が負傷

6月7日、中国電力の現場責任者ら社員と警備員、合わせて10名以上が、海岸に繋留中の自分の船に乗ろうとする祝島島民の会山戸代表を囲み、揉み合いとなりました。山戸代表は、そのまま海に押し倒され、警備員らの下敷きになり、外傷性頸椎症で全治 10 日の負傷をする事態を招き、現在、傷害事件で告訴しています。

★ あらたな長期抵抗の闘いへ

祝島島民の会では、高齢者が多く体力的精神的な疲労激しく、また中国電力の警備の枠を超えた暴力行為によって山戸代表が怪我をし、さらに高齢者数名が中電社員や警備員、作業員らによる行為で体に痛みを訴えていることから、6月9日から13日までの五日間、中国電力が仮栈橋の設置作業を行わないことを条件に、仮栈橋の設置作業について施工区域内で座り込む等の抗議行動は控えることにしました。

その後、中国電力は仮栈橋を設置しましたが、現地の地盤が弱いため、試掘坑を掘るための機材搬入に手間取っているようです。

★ 詳細調査で破壊の危機に瀕する貴重な自然

上関原発予定地長島は、世界的に希少な貝類をはじめ、スナメリ・ナメクジウオ・カラスバトなど、他の地域では絶滅に瀕した生物が健全に生息しており、専門家からも「瀬戸内の原風景」「究極の楽園」と絶賛される豊かな自然環境と生態系に恵まれています。

ところが、昨年4月強行された詳細調査は、海陸併せて120カ所のボーリング調査や試掘坑調査・弾性波探査など環境に甚大なダメージを与えるもので、私たちは、調査開始後2ヶ月足らずで海岸部の異変を察知し、中国電力が海陸両方でボーリング濁水を垂れ流していた事実を突き止め、約3ヶ月にわたり調査を中断させました。しかし、調査再開後、仮栈橋の設置や照葉樹林伐採など破壊の更なる拡大が進行しています。

★ 希少な海藻（日本海を主産地）が見つかる！！

そんな中、今年5月7～8日にかけて行った海藻調査で「スギモク」という希少な海藻が新たに確認されました。日本海が主産地で瀬戸内海では2例目だそうです。また、9月10日の調査ではオキナウチワという、これも日本海が主産地の海藻が確認され、田ノ浦湾の一部だけ、日本海的な生態系があると研究者も非常に興味を持っています。スギモクは、群落密度の最も高いところが仮栈橋の設置場所下流にあたり、工事によるダメージが懸念されることから、近く関係行政機関に申し入れ、中国電力の調査や工事中止を求める予定です。

★ 今なら、まだ間に合う！詳細調査のストップを！！

現在、詳細調査は、現地をはじめ様々な側面からの反対運動の成果で、大幅に遅れています。自然破壊・環境破壊阻止も、今なら、まだ間に合います。是非、「詳細調査ストップ！」「上関原発計画No！！」の声を上げて頂けたらと切望しています。

★ 7年間の記録をビデオに集大成

「長島の自然を守る会」は1999年9月に発足し、日本生態学会などの研究者との調査成果を基に、環境アセスメントのやり直し(2000年)、山口県レッドデータブックへの長島の希少生物登録要望(01年)、四代八幡宮神社地保全の要望(02年)、詳細調査ボーリング濁水垂れ流し発見・告発(05年)など、環境保護の側面から活動を行ってきました。

今回の緊急事態に鑑み、会員が7年間にわたり記録してきた映像や資料を、ビデオに集大成しました。長島の貴重な自然と、詳細調査により損なわれつつある現状、そして未来への展望も盛り込んでいます。是非、1人でも多くの方にご購入頂き、ビジュアルな映像で現地の状況をご覧頂きたいと思います。

**ビデオ&DVD「瀬戸内の原風景 長島の自然」**

● 第1章 “長島って どんどころ”

スナメリ遊泳シーンをはじめ、素晴らしい自然環境と豊かな生態系をビジュアルな映像で捕らえました。

● 第2章 “長島に原発計画が…！”

詳細調査による環境への影響や、このまま原発計画が進められた際の深刻なダメージを報告しています。

● 第3章 “長島の未来は？”

私たちが選択すべきものは何なのか？長島の未来について考えます。

\* 価格：VHS・DVD いずれも3,000円 \* 時間：30分

\* 環瀬戸内海会議事務局でも好評取り扱い中です

**東京で10・14記念シンポジウムを開催**

ビデオ「瀬戸内の原風景 長島の自然」完成記念 シンポジウム&パネル写真展を東京で開催致します。近隣の方は是非、お誘い合わせの上、ご来場下さい。また、知人・友人へのご紹介などもよろしくお願い致します。(日程・会場は次ページに掲載しています)

環瀬戸内海会議では前号でお願いした、祝島島民の会への支援カンパを継続しています。同封の郵便振替用紙通信欄に「上関支援カンパ」とご記入のうえ、カンパをお寄せ下さいますようお願い致します。環瀬戸で責任を持ってお届けいたします。

ビデオ「瀬戸内の原風景 長島の自然」完成記念

シンポジウム&パネル写真展

日時 10月14日(土) 13:00~16:30

場所 東京都渋谷区代々木2-12-2 カタログハウス セミナーホール

内容 ①ビデオ紹介(13:10~13:40)

「瀬戸内の原風景 長島」「瀬戸内スナメリものがたり」

②シンポジウム(13:40~16:30)「長島の自然」

パネラー 粕谷俊雄(元三重大学)・加藤真(京都大学大学院)・野間直彦  
(滋賀県立大学)・長谷川直彦(弁護士)・花輪伸一(WWFジャパン)

③写真パネル展(25点)「瀬戸内の原風景 長島」

④物資販売 ~ 祝島の特産品・長島の自然を守る会のオリジナルグッズ

入場料 無料(会場でカンパ要請)

主催 長島の自然を守る会 協賛 高木仁三郎市民科学基金 環瀬戸内海会議ほか

播磨灘を守る会35周年記念シンポジウム

「播磨灘の再生とラムサール条約登録を」

日時 : 10月28(土)~29日(日)

場所 : 兵庫県たつの市御津町黒崎「新舞子荘」

内容 :

28日 播磨灘現地見学とスナメリ探索クルージング

(クルージング受付:13:00~岩見港岸壁 姫路沖・家島群島・赤穂を巡航)

新舞子の干潟生物調査報告 参加者交流会

29日 9:00~ VTR「播磨灘の人々の活動」

10:00~ 記念講演とシンポジウム

講師 宮本憲一氏(立命館大名誉教授) 讃岐田 訓氏(神戸水環境研主宰)

柳 哲雄氏(九州大教授) 中村 玲子氏(ラムサールセンター事務局長)

参加費 クルージング:2000円 シンポジウム:1500円 宿泊・交流会:10000円

\* 申し込みは10月14日まで

主催:播磨灘を守る会(連絡先:671-1331 たつの市御津町岩見 Tel079-322-0224)



第27回豊島原論 「瀬戸内海の水と生物」

とき : 2006年11月26日(日)13:30~16:30

ところ : 香川県社会福祉総合センター7F第一中会議室(高松市番町1-10-35)

講師 : 湯浅一郎さん(独立行政法人 産業技術総合研究所中国センター職員)

参加費無料 ただし資料代500円

この講座は「全労済環境活動助成」で実施しています

主催:豊島は私たちの問題ネットワーク(豊島ネット) 共催:環瀬戸内海会議

問い合わせ:Tel・Fax 087-832-5188 または t-net@poem.ocn.ne.jp まで

瀬戸内トラストニュース 第37号 2006年10月10日発行 / 発行責任者 前田俊英

環瀬戸内海会議 代表 阿部悦子 (TEL 089-915-0619)

郵便振替口座 01600-5-44750 加入者 環瀬戸内海会議

URL <http://ww1.tikine.jp/~rkshizutani/> メールアドレス kanseto@mx36.tiki.ne.jp